



春光うらかな季節を迎え、先生方におかれましては益々御健勝のことと存じます。平素よりキッコーマン総合病院整形外科をお引き立ていただきまして、厚く御礼申し上げます。東日本大震災から1年が経過しましたが、現在も行方わからない方、また、原発事故の影響で自宅を追われ、異郷の地で不便な生活をされている多くの方々がいらっやいます。謹んでお見舞い申し上げます。

現在建設中の新キッコーマン総合病院は、6月1日竣工、8月17日のオープンに向けて全職員一丸となって準備を進めております。新病院では、是非多くの方にご利用いただければ幸いです。

筑波大学臨床医学系整形外科で教授として教鞭、臨床のリーダーをされておられました落合直之先生が3月末に筑波

大学を退職され、4月よりキッコーマン株式会社の顧問に就任、キッコーマン総合病院の外科系センター長として赴任されました。これまで、大学病院ならではの難治症例に対して高度な治療をなさってこられました。今後は引き続き、上肢、末梢神経など、分野にかかわらず地域の中の困難症例に対して治療を展開されます。是非、お困りの症例がありましたら御紹介ください。今号は、落合先生のご紹介、手の外科トピックではヘバーデン結節についてご紹介いたします。今号もお楽しみください。

今号のトピック

外科系センター長として赴任いたしました

外科系センター長 落合直之



この度、筑波大学を辞し、本院外科系センター長として赴任いたしました。すでに長らく月曜日の整形外科外来をお手伝いしてきておりますので顔馴染みの方は職員のみならず患者さんにもおられることと思います。

「整形外科」は、orthopaedic surgeryを明治の時に一般外科から独立し新たな講座を設置する際に、東京大学初代整形外科教授田代義徳先生が漢学者と相談し邦訳されたものです。古い書体では「整」は「整」となっております。その意味するところは「之を束ね、之を支(た)たき、しこうして之を正す。之とは形」すなわち骨の形を矯正しあるべき姿に持って行けば、身体、関節などの機能が正常に働けるということでもあります。逆に機能が損なわれると形も異常を来すこととなります。

整形外科は、ヒトの機能の中でも呼吸、循環、消化など動物と植物に共通する機能を扱う科がいずれも消化器内科、消化器外科といった具合に外科と内科に分かれているのとは違い、整形外科は外科と名乗っていますが実は、保存療法(内科的治療)もやっております。否、むしろ保存療法の方がはるかに患者さんの数が多い科であります。その扱う

対象は、ヒトの動物機能、すなわち、歩く、手を使うといった運動器であり、整形外科医はその保守、修復屋さんです。その守備範囲は極めて広く男女を問わず、乳児から老人まで扱い、解剖学的には、脳を除く脊髄・脊柱そこから手足に行く感覚、運動機能をコントロールする末梢神経、そしてその効果器官である上肢、下肢の骨、軟骨、関節、靭帯、筋、腱、血管にまで及びます。つまり運動器の機能障害が外傷、病気、加齢現象を原因に生じた時、ありとあらゆる手段・道具類を使って修理修繕し、極力本来の機能を回復できるように努めている運動器修復のプロ集団と言えます。

その中で、これまで、何処の医療機関でもどうしようか困ったといった難治例を集めた外来、入院加療を筑波大学で行ってきました。その経験を今後はできるだけ本院の診療に活かしていきたいと思っております。

特に、広い整形外科分野でも、私は、末梢神経疾患、上肢機能再建外科を中心にしてきました。また、ロシア、クルガンのイリザロフ博士が開発した創外固定器を用いた、先天性、後天性(外傷性)四肢変形矯正、骨欠損補填、感染性偽関節治療などの治療を手がけております。

手の外科トピック

ヘバーデン結節

副院長・整形外科部長

田中利和

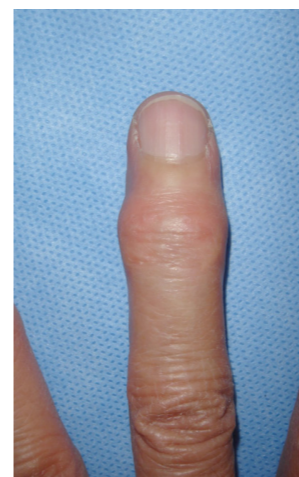


【症状】 手を使っていると指の関節が痛くなることがあります。また、痛くなくとも徐々に腫れてくることがあり、変形を自覚することがあります。人差し指にでき今度は中指にと徐々に関節の腫れが増え、リウマチかな?と心配になります。時には横に傾いてしまうこともあります。これはヘバーデン結節といい、膝や股関節が変形することと同じことが指の第1関節におこっています。原因がまだわからなかった頃には、三重県で給食調理員に多発する奇病と新聞で報道されたほどです。

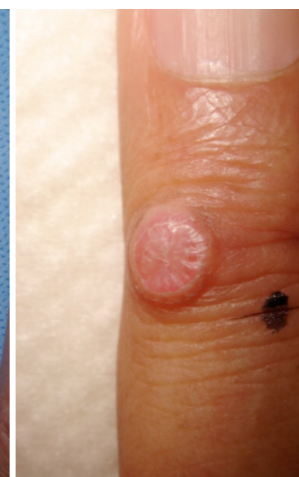
【治療】 写真のように関節が腫れ(図1)、膝と同様に水が溜まることがあります(図2)。これがひどくなり、骨と置き換わってしまうほどのこともあります(図3)。経時的に進行していくものですから放置するのですが、タケトラから発売されているDIPエイド(図4)

をつけると数日で疼痛は改善します。放置しても可動域が低下すれば疼痛は改善します。または、多くの患者さんはDIPエイドをつけておくと、嚢胞(ミューカシスト)も改善します。しかしどうしてもという方には、皮弁をふって骨棘を切除する手術をお勧めします。悩ましいことに、再発することがありますのでお気をつけください。また、どうしても疼痛が改善しない方には関節固定を行います。教科書的には屈曲30度での固定が推奨されていますが、人前に手を出すときには伸展位固定のほうが良いです。術後慢性疼痛症候群になり手が使えなくなることがありますので、患者さんとよく話し合ってから固定を行ってください。鋼線による仮固定を行い、使い勝手を確認してからでも遅くはありません。

何かご不明な点がありましたら、いつでもご相談ください。



(図1)



(図2)



(図3)



(図4)

編集後記

巷はマラソンプームらしく、私の住むつくば市では多くのランナーが歩道を走っています。『毎年11月には全国から2万人近いランナーたちがつくば山をバックに42.195kmを駆け抜ける』、そんな私もつくばマラソンに参加し、今回は憧れの東京マラソンの抽選にも当たりました。記録を出すことよりも、完走することが目的です。他のマラソンと違い、東京マラソンは応援が切れないこと、そしてボランティアがたくさんいることが特徴的です。水分補給の際、また沿道の各所から『頑張れ』という応援をいただき、折れそうな気持ちを奮い立たせてくれます。完走後は、肩から大きなオリジナルタオルを、首からは完走メダルを掛けてもらい、あちらこちらから『おめでとうございます』との祝福の声。とっても満足した気持ちになります。走りだして5年です。刺激したわけではありませんが、多くの同僚が走り出しています。あなたもどうですか?

(副院長・整形外科部長 田中利和)



kikkoman

キッコーマン総合病院

〒278-0005 千葉県野田市宮崎100
電話04(7123)5911(代) FAX 04(7123)5920
<http://hospital.kikkoman.co.jp/>